

新年のごあいさつ

一般社団法人 多治見法人会 会長 **加藤 誠二**



新年明けましておめでとうございます。平素は、多治見法人会の活動に対し格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、甚大な被害をもたらした元旦の能登半島地震に始まり、物価高、人口の減少、高齢化、社会保障費の増加、近隣諸国との国際情勢の複雑化など未だに先が見えない諸問題が蓄積する中、「政治とカネ」の問題が表面化し、国民の視線を集めることとなりました。

このような状況の中、多治見法人会は、コロナ感染症の終息を経て、定時総会(5月)、税を考える週間の税金クイズと講演会(11月)や各地域での広報活動など、以前と同様な活動を実施することができました。

部会活動では、青年部会と女性部会が地域の各小学校で租税教室を開催し税金に対する正しい知識と理解の普及に努めました。また、就職を希望する高校生対象とした青年部会の入社模擬面接は本番さながらの緊張感の中実施され、毎年好評です。さらに、女性部会の税に関する絵はがきコンクールには明るく可愛い作品が数多く集まりました。

法人会の重要施策のひとつに「税制改正に関する提言活動」があります。多治見法人会はこの提言書の作成にも全面的に協力し、中小、零細企業の立場から国民生活の向上に寄与しております。

本年もまた、会員の皆様には、財政基盤強化につながる「会員増強」と「福利厚生制度の充実」をお願いするとともに、社会貢献活動でのご理解、ご協力をお願い申し上げます。本年が皆様にとって良き年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

多治見税務署 署長 **近藤 晃弘**



令和7年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人多治見法人会の皆様には、地域社会の発展とともに平素から税務行政につきまして深いご理解と格別のご協力を賜り、また、租税教育や税の啓蒙活動等に多大なるご尽力を頂いていまずことを厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元旦に発生した能登半島地震をはじめ、各地でも大きな地震や豪雨による被害に見舞われるなど、自然災害が多く、心が痛む出来事が例年になく多かった年でありました。

その一方で、大谷選手をはじめとした日本人スポーツ選手の海外での活躍、オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の好成績など、心躍るような出来事も数多くあり、その活躍ぶりに大きく勇気づけられた一年であったことも印象的でした。

このような中、新しく迎える年が、会員の皆様にとって充実した年となりますことを祈念いたしますとともに、一般社団法人多治見法人会が引き続き魅力ある事業活動を展開され、会員企業と地域社会の発展に一層の貢献をされますことを御期待申し上げます。

私どもといたしましては、本年も引き続き、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を果たすために、グローバル化やデジタル化の進展等の経済社会の変化に柔軟に対応し、様々な課題に的確に対応していくことが重要であると考えております。

国税庁が推進する「税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)」は、こうした変化に対応するための取組の一つであり、これまで以上に納税者の皆様の目線に立ち、日常使い慣れたデジタルツールから簡単・便利に手続を行うことができる環境構築や、データ活用を基軸とした調査・徴収事務運営など、「納税者の皆様の利便性の向上」、「課税・徴収事務の効率化・高度化」を進めてまいります。

更に、税務行政のデジタル化と併せて、法人会をはじめとする関係民間団体の皆様や関係省庁とも連携を図りながら、「事業者のデジタル化促進」にも取り組み、社会全体のDX推進に貢献してまいりたいと考えております。

本年も、法人会の皆様との信頼関係をより深いものとし、これらの取組を進めてまいりたいと考えておりますので、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、一般社団法人多治見法人会の更なる御発展と、会員の皆様の御健勝並びに事業のますますの御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。